

●このサウンドレポートのコンセプト●

- 1 フィールドレコーダー用にiPadなどのタブレットから簡単にサウンドレポートを入力
- 2 録音前だけでなく録音中や「録音後」にも記入できる
↑(録音機単独でファイル名を入力する場合は録音前にファイル名を記入しないといけないことが多い)
- 3 シーン/カット/テイクという撮影方法の日本方式に対応する
- 4 マイクの種類(目的) を簡単に記入する
- 5 PDFでサウンドレポートをエクスポートする
- 6 フィールドレコーダーが自動で名前をつけたファイル名を後で簡単にリネーム
- 7 ポストプロダクションでファイルの検索を簡単にする
- 8 リネームを必要としない場合や、フィールドレコーダーでの音楽録音などでも使うことができる

●概要●

筆者の場合はMac bookとiPad mini とBluetooth キーボードを用いて現場で作業している。
iOS(iPad OS)デバイスとMacを基準に開発しているので、それ以外の環境での動作は不明。

1日ごとにファイルメーカーのファイルを1つ作成する

「Filemaker Pro Go」というiOSデバイス専用アプリは「App store」から無料でダウンロードできる

もしくはMacにて「Filemaker Pro12以上(有料)」をインストールして、記録することもできる。

Macだと「レイアウトモード」レイアウトをカスタマイズできる機能がある。

iOS(iPad OS)だと「ブラウザモード」といって閲覧・入力専用になり細かいカスタマイズはできない。

File Makerはデータベースソフトであり、入力した情報を自分が見たいレイアウトで表示させる。

その画面で閲覧や入力をする。入力したデータは都度自動保存され、他のレイアウトでも反映される。

(例 Record 10chのレイアウトで入力したデータは、Sound Reportなどのレイアウトでも反映されている。)

2 Boom Mic + 6 Lav Mic + 2Mix の10ch録音

4 Boom Mic + 8 Lav Mic + 2Mix の14ch録音

6 Boom Mic + 6 Lav Mic + 2Mix の14ch録音

6 Boom Mic + 10 Lav Mic + 2Mix の18ch録音

この4パターンを想定している。(現段階では24ch+2Mixはないが、今後対応することは可能)

Boom MicとLav Mic(Lavalier Mic=ピンマイク)の境界は、

MacのFileMaker レイアウトモードから「値一覧」を変更することでEdit可能

●撮影前の準備●

録音機はPolyphonicで録音すること

「Preferences」で設定を記入し、この設定を有効にする→「10ch・14ch・18ch」の好きなレイアウトで記入する

「Preferences」に記入したものが録音時レイアウト SoundReportなどに反映される

「Boom Mic」「Lav Mic」「Mix」の値一覧を設定する。

マイクポジションや人物名などをドロップダウンリストで簡単に入力できる。

このアプリのFileNameと録音機のFileNameが同一になるようにする。

「Short Title」+「日付4桁MMDD」+「Take designator」+「001」=「Original File Name」

「Short Title」が不要な時は「Preferences」で空欄にすればよい。

また録音機によっては最初のファイルが「01」となることがあるが100ファイルを超した時に、

ファイル名の並びがおかしくなるのであえて「001」と設定してある。

録音したWavファイルを撮影終了後に、シーン_カット_テイクにMacでRenameする。

Rename後の、テスト(リハーサル)のテイク名は[Rehearsal start #]で決めた数字から始まる

[ts1][91][81]のいずれかから選べる。

ちなみに「Take designator」はテイクの前に入る区切り文字のことで、[-]ハイフンは避けたほうがよい。

ProToolsで編集するとサブクリップの自動名称にハイフンを使うので混乱の原因になる。

作成者の経験上、サウンドレポートを 入力しているこのファイルメーカーのファイルは

1日1ファイルとしたほうがトラブルが少ないので、撮影1日ごとに1ファイルとする。

つまり毎日新しいファイルでサウンドレポートを記録する。

毎朝、前回のファイルを開いてから「複製を作る」と簡単である。

iOSの場合→左上の○にVマーク→名前をつけて保存→データベース→名前にその日の日付を入れる→

続行→FileMakerGoに保存

BluetoothなどのiPad用のKeyboardの使用を推奨する。無いと画面の下部分をソフトキーボード画面で占有される。

また画面がロックした際に、Keyboradからロックを解除できるので便利である。

●使用方法●

毎日録音する前に、レイアウト「Record XXch」にて右上の「Morning Ceremony」を行う日付が自動設定される。自動入力なので基本的に当日の朝やること

(変えたい場合は一番右の「日付を手動で入力」から修正できる。)

日本の方式の、Scene名+Cut名+Take名を簡単に記録できるようになっている。

操作は現在選択しているレコードを基準として、画面上下にある様々なボタンを押せば反映

される（下に詳細あり）

またシーン・カット・テイクの項目は作品内での0を入れる桁数を統一しておく。

つまりシーン13を[13]と入力するなら、シーン1は[01]とする。

シーン13を [013] と入力するなら、シーン1は [001] とする。

そうしないとコンピューターでファイルをソートしたときに、うまく並ばなくなる。

「Mark」という箇所は自由に使える項目。問題があったテイクなどを後で探すときにチェックを入れておくと

探しやすい。

「Wild」は Wild Track=同時録音ではない録音、すなわちサウンドオンリーのこと。

ポストプロでファイル整理をするときに便利。

さらに「For Post-Production」というレイアウトで、Wild Trackは

DialogueとPFX(Production effects)に分類できる。

「Roll #」はカメラのロールナンバーである。カメラとTC同期している時は入力したほうが望ましい。

ポストプロでAAFからメタデータでオリジナルのWavファイルに自動的に置き換えるときに必要になることがある。

FileMakerというアプリは基本的に自動保存なので保存という概念がないが、

移動時などにアプリを終了させると。時々、アプリ上のファイル名と実際の録音機のファイル名が

ずれてしまう時がある。（キャッシュを書き込みしていないためだと思われる）

その時はレイアウト「Record XXch」右下のシリアル値を訂正する。

「←RecorderとFileNameがズレた場合はここを修正」と書いてある箇所である。

●Record レイアウトのボタンの説明●

「+Take」

現在の状態のレコードが1つ追加され、テイクが1つ増える

「Next will Shoot」

次が本番。現在と同じレコードが1つ追加され、テイクが01となる

「another Cut」

最後のテイクがOKとなり、レコードが1つ追加され、カットナンバーが一つ増える。

テイクはテストの1になる。

「another Scene」

現在のテイクがOKとなり、レコードが1つ追加され、トラックとRemarksがリセットされる。

カットが01となり、テイクはテストの1になる。シーンのフィールドに移動。

「Erase selected」

現在のレコードを削除する

「Reset selected」

現在のレコードの、トラック名とRemarksが空欄になる

Mix L= Boom Mx / Mix R= Lav Mx に設定される

「Morning Ceremony」

1日の最初に行う

全レコードを削除、オリジナルファイル名が、Short Title+日付+001に設定される

Mix L= Boom Mx / Mix R= Lav Mx に設定される

カメラのロールナンバーを入力する画面がでる

カットが01となり、テイクはテストの1になる。シーンのフィールドに移動

「Cut +」 or 「Cut -」

現在のレコードのカットナンバーを「+1」 or 「-1」 する

「Current to Test1」

現在のレコードのテイクを「テストの1」にする

「Current to 01」

現在のレコードのテイクを01にする

「Previous Follows」

現在のレコードを、一つ前のレコード+1 (一つ前の続き)にする

「Sort by Name」

オリジナルネーム順に並び替える。

(問題があってオリジナルネームを手動で変えたとき以外使う必要はない)

●日々の撮影終了後●

その日の中でシーンカットテイク名の間違いが無いか確認する。

シーンカットテイク名は重複があると警告が出るようになっている。

スクリプターのレポートとOKテイクを確認しておくのが理想的である。

後日ファイル名が間違っているのに気づくと修正がとても手間になる。

以下リネーム前に3工程のファイル保存をする。その後リネーム作業をする

<1 PDF作成>

サウンドレポートのpdfを作成する。

Macの場合

→Sound Reportレイアウトにて「pdf」ボタンを押す。

ファイルメーカーのファイルが置いてある階層にSound report.pdfが作成される。

iOSの場合

Sound Reportレイアウトにて「pdf」ボタンを押すと印刷画面が表示される

レコード範囲を[対象レコード]・用紙を[A4の横]にして、98%に設定し、PDFを押す

ファイル名には日付を追加した方がよい。そのまま編集部にもメールしたり、保存先の指定が可能。

<2 CSV作成>

Renameするためにファイルメーカーの「For Rename」レイアウトより、

「csvファイル形式」でエクスポートする。

Macの場合

「For Rename」レイアウトで上部のボタンを押せばcsvファイルがファイルメーカーのファイルと同じ階層にできる。

iOSの場合

For Rename」レイアウトで「csv作成」ボタンを押すとアプリ内のデバイスという箇所にcsvが保存されるが

これもファイル管理がしづらいので以下の方法をお勧めする。

画面左上のチェックマークを→エクスポート→コンマ区切り (csv)から

外部にエクスポートできる (ファイル名には日付を追加した方がよい)

<3 FMP12ファイルをエクスポート>

その後 iOSの場合

ファイルメーカーのデータベース(.fmp12)をメールやAirDropにて自分のMacに送る。

iOSの場合→左上の○にVマーク→名前をつけて保存→データベース→名前にその日の日付が入っているか確認→

続行→メールやAirdropやDropBoxなど

<MacにてのRename作業>

Rename ソフト「Perfect Rename」にて録音したファイルを、csvファイルから自動でリネームする。

Perfect Rename自体は無料だが、csvファイルからの変換機能を付加するのに610円かかる。

まず、ソフトを起動し、リネームしたい録音ファイルをすべてドラッグしてリストに表示させる

録音したファイルが100を超える場合は、99の次が100になっていない場合があるので順番を確認する。必要であればソートする。

画面上部のcsvアイコンを一段下にドラッグし、csvアイコンをダブルクリックして、csvファイルをインポートする。

Original NameとNew Nameのリストが作成されるので、よく確認してから、右下のRename Filesをクリックしてリネームする。

なおリネーム前のオリジナルファイル名で探したい場合は、WAVのメタデータのSceneとTakeに記録されているので、Pro Tools もしくはWave Agentにて探すことが可能

●クランクアップ後●

日々のファイルメーカーファイルを一つのファイルにインポートし、1ファイルで作品すべてのデータが見れるようにする。

MacのFileMaker Pro →ファイル→レコードのインポート→ファイルとして基準となるファイルに全撮影日のファイルをインポートする

その際 注意点として「Original FileName」というフィールドを「Imported FileName」フィールドにインポートする

ポストプロ作業中はまとめた1つのファイルの「For Post Production」レイアウトでその作品全てのSound Reportを参照することができる。検索も簡単である。必要に応じて、エクセルで吐き出しておく印刷したり他人に渡すときには便利である。

●要約●

File Maker Proはデータベースに特化したカスタマイズできる自動保存ソフト

<Macでできること>

File Maker レイアウトやスクリプトを修正

File Maker データベース入力・閲覧と値一覧の修正

File Maker PDFやCSVやfmp12ファイルのエクスポート

Perfect Renameでのリネーム作業

ポストプロ用にすべてのデータベースをインポートして集約する

<iOSでできること>

File Maker データベース入力・閲覧と値一覧の修正

File Maker PDFやCSVやfmp12ファイルのエクスポート

バグなどの動作の不具合に対して責任は負いませんので、あらかじめご了承ください。

ファイル作成者 富田和彦

2020/07更新